

令和5年度

つくば秀英高等学校 経営計画表

1. 学校の現況

学校名	つくば秀英高等学校			課程	全日制		学校長名	石川 英昭		
教頭名	石塚 安喜子			副教頭名	沢辺 卓己		事務長名	坂本 光久		
教職員数	教諭 30	養護教諭 1	常勤講師 13	実習助手 1	非常勤 講師 30	事務職員 12	用務員 1	合計	92	
生徒数	(学科) 普通科	1年		2年		3年		合計		クラス数 合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	
		231	182	190	152	181	129	602	463	

2. 目指す学校像

建学の精神(自主・博愛・創造)のもと、国際的研究学園都市つくばにふさわしい、進取の気風あふれる学校。

3. 教育方針

- 1) 〈自主〉「わくわくする心」で何にでも挑戦できる人間的強さを育てる。
- 2) 〈博愛〉教師・生徒すべてが他者の存在を尊重し、一人ひとりを大切にする。
- 3) 〈創造〉知識を統合しそれを実現する過程を通して、新たな視点を身に付けさせる。
- 4) 〈英語の秀英〉英語力とともに多様な価値観を学び、国際的な広い視野を獲得させる。

4. 中期的目標

学びを通して自らの生き方を広げていく知的好奇心あふれる生徒を育てるとともに、国公立及びGMARCH以上の合格者50名以上を達成し、新しい形の進学校としての地位を確立する。

5. 今年度の重点目標

- 1) 知的好奇心に基づく真の学びの楽しさを実感できる授業を追求する。
- 2) 安心できるクラスづくりに基づき、アクティブ・ラーニング型授業を活性化する。
- 3) 「チームコーチング制」による本格的なコーチングによって、Sコースの大幅な学力向上を実現する。
- 4) ICTを活用した「温習教育」による個別最適化学習を活用しながらTコースの学力向上を実現する。
- 5) 「ICA(国際コミュニケーション活動)プログラム」による動機づけを軸とし、英語力向上を目指す。

令和5年度 つくば秀英高等学校 学校関係者評価結果表

1. 本年度の重点目標

- 1) 知的好奇心に基づく真の学びの楽しさを実感できる授業を追求する。
- 2) 安心できるクラスづくりに基づき、アクティブラーニング型授業を活性化する。
- 3) 「チームコーチング制」による本格的なコーチングによって、Sコースの大幅な学力向上を実現する。
- 4) ICTを活用した「温習教育」による個別最適化学習を活用しながらTコースの学力向上を実現する。
- 5) 「ICA（国際コミュニケーション活動）プログラム」による動機づけを軸とし、英語力向上を目指す。

2. 自己評価の結果に対する学校関係者評価

（令和6年3月26日）

校務分掌		重点目標	自己評価	学校関係者
教務部	教務	学びの意味を意識した授業改善	4.5	4
		新しい校務システム導入による業務のスリム化		
	ICT	校内通信環境の充実	4	
		教育ICT環境の充実		
		校務負担軽減に向けた取り組み		
	第1学年	学力の向上	4.75	
		学園生活の充実		
		進路の具体化		
		保護者との連携		
	第2学年	学力の向上	4.75	
		学園生活の充実		
		進路の具体化		
		保護者との連携		
	第3学年	学力の向上	4.75	
		学園生活の充実		
		進路実現		
		保護者との連携		
	国語科	共通テストへの教員間の情報共有	4.5	
		思考・論述力の強化		
		多角的視野の育成		
ICTを取り入れたアクティブ・ラーニング				
地歴・ 公民科	学力の向上	4		
	社会人としての資質の向上			
	教員研修の充実			
数学科	学力の向上(1)	4		
	学力の向上(2)			
	課題解決能力の育成			
理科	学力の向上(1)	4		
	学力の向上(2)			
英語科	学力の向上	4.25		
	英検合格率アップ			
	言語活動を増やす			
	英語学習へのモチベーションアップ			
保健体育	心身の健康を保持増進する能力を高める	4		
芸術科	感性を磨き、豊かな心の育成	5		
情報科	学力の3要素を基盤とした素養の育成	4.75		
	パソコン検定合格率アップ			
	プレゼンテーション能力の向上			
家庭科	プログラミング教育の充実	4		
	授業の改革			
	教員のスキルアップ			

校務分掌		重点目標	自己評価	学校関係者
入試・進路統括	入試	入学者に占める第一志望者増	5	4
		WEB戦略の強化		
		「わくわく体験会」開催		
	進路	生徒の進路意識の向上	3.75	
		進路指導（大学入試・専門学校・就職）への支援		
		大学進学率80%を目指して		
		学習活動の支援		
	Sコース	学力向上 チーム・コーチング制の導入 国公立大学(特に茨城県内)の合格者(割合)増 GMARCH以上の私立大学の合格者増	4	
		Tコース	基礎学力の定着	
	学力の定着			
T選抜クラスの運用強化				
進路実現を目指したキャリア教育の充実 国公立大学、日東駒専への合格を目指す				
生徒指導	生活指導・いじめ対策室	いじめ問題への的確な対応	3.5	4
		SNS上での問題の対応や携帯端末の使用		
	保健環境・カウンセリング	心身の悩みとフォローアップ	4	
		校舎内外の環境整備の徹底	4	
		特別活動係	4	
P T A係	P T A各組織の円滑な運営と活性化	4		

※本校の教育活動に関する意見交換により得られた自己評価の結果等についての評価である。

評価基準

5：十分適正である 4：適正である 3：概ね適正である 2：やや適正に欠ける 1：適正でない

令和5年度 つくば秀英高等学校 第三者評価結果表

(令和6年3月30日)

	評価事項		評価
1	本校の教育理念の実践について		⑤: 十分適正である 4: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
2	当年度の教育目標に対する取組とその成果について (主に授業、生徒指導、進路指導、部活動等の状況を中心に)	校務分掌	5: 十分適正である ④: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
		学年	5: 十分適正である ④: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
		コース	5: 十分適正である ④: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
		教科	5: 十分適正である ④: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
3	当年度の課題と今後の方策について		⑤: 十分適正である 4: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
4	本校の組織運営について		⑤: 十分適正である 4: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない

(評価者の意見等)

- ・ 建学の精神に基づく個性豊かな教育活動が実践されており評価に値する。
- ・ 「英語の秀英」として英語教育のさらなる充実を期待したい。
- ・ 「秀英ブランド」は確実に進化しており、つくば市内の私立高校としてオンリーワンの地位は確固たるものになるであろう。

万博記念公園駅前イルミネーション実行委員会 会長 根本行雄



※上記は自己評価結果や学校関係者評価の実施状況を踏まえて、本校の学校運営の状況について評価したものである。